

4-5 旅客船・観光ネットワークの充実

本県には、有明海・八代海の2つの大きな内海を有し、それぞれフェリーや旅客船等の定期航路が多数存在し、人々の生活、また観光やビジネスの足として年間延べ372万人に利用されています。

これらのフェリー・旅客船に関する港湾施設は古いものが多く、また地方港湾においては、砂・砂利等の野積み場に近接している所もあり、利用しにくい箇所が見受けられます。そこで、高齢者や障害者に対するバリアフリーはもとより、ユニバーサルデザインの観点から各施設の点検を行い、より安全で利用しやすい施設への改良や、ふ頭の再編を順次行っていきます。



鬼池港（ふ頭の再編）

鬼池港は、長崎県口之津港へ毎日15便のフェリーが運航されています。しかし、フェリー利用者のための駐車場が手狭なうえ、砂・砂利の野積み場が近接しているため、フェリー利用者にとってあまり好ましい状況ではありません。現在砂・砂利を取り扱う岸壁・ふ頭の整備を行っており、近々このような状況が解消される予定です。

さらに、阿蘇～熊本～長崎県島原・天草地域といった観光ルートの拠点として、また観光・暮らしと海とを切り離して考えることができない天草地域の海の玄関として、熊本港・本渡港において、港へのアクセスや陸上輸送事業者との連携も視野に入れた観光ネットワーク形成の支援を行い、天草空港とともに観光を柱とした地域間交流の活性化を図ります。

また、三角港西港地区や水俣港エコパーク水俣に代表される県民に親しまれる港湾緑地の整備を行ってきましたが、今後も引き続き、熊本港において野鳥・干潟の観察施設を有する緑地の整備や、港がもつオープンスペースを利用した各種イベント開催を可能とする周辺整備など、より一層県民の方々に親しみやすい場所や賑わいの場の創出を図っていきます。これらの施設についてはバリアフリー・ユニバーサルデザインや景観にも配慮した整備を行うとともに、地元市町と連携し、歴史学習・環境学習・自然学習などの体験学習の場として利活用を図ります。

4-6 防災拠点の整備、高潮対策

県内には、兵庫県南部地震に代表されるようないわゆる直下型大地震に耐えられる港湾施設がありません。そのため、広域的な地震災害発生の際の緊急物資や避難